

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*乗鞍コロナ観測所看板の元の書を収蔵

乗鞍コロナ観測所は1949年(昭和24年)9月26日に最初の建物が完成し、1950年(昭和25年)6月1日にコロナ観測特別事業が認められ、7月に開所式を行っている。研究施設として認められたのは1964年(昭和39年)で、岡山天体物理観測所と同年であった。

乗鞍コロナ観測所には木製の看板が掛けられていた(写真1)。看板のわきに立っている人物は西野洋平氏である。この看板には国立天文台乗鞍コロナ観測所と書かれているが、国立天文台の位置が微妙である。その国立天文台の上の部分の部分が削り取られているのが分かる。



写真1 乗鞍コロナ観測所の看板

の施設の重要人物が書くことが多いようだ。この看板を製作したのは元乗鞍コロナ観測所職員であった代情 靖氏である。代情氏の実家は高山市で、古くから朴の木の「一刀彫り」をやっておられ、乗鞍コロナ観測所の看板も朴の木を使って手掛けて下さったとのことである。

る。おそらくそこには東京天文台と書かれていたはずである。

この看板の文字の原稿が見つかった。長らく乗鞍コロナ観測所に勤務されていた入江誠氏が保管していたものを、筆者が譲りうけた。

この文字原稿を書かれたのは2代目所長であった長沢進午氏であったそうだ。その原稿が写真2である。

看板の文字はそ



写真2

乗鞍コロナ観測所は2010年をもって閉所され、現在は自然科学研究機構の所管になっている。乗鞍コロナ観測所の主要観測装置であった25cmコロナグラフは筆者が引き取り、現

在は復元可能な状態で主に6個に分解され、国立天文台天文機器資料館に保管されている。

この書を書かれた長沢進午氏は、1970年（昭和45年）3月に東京天文台を定年退官されている。この年には広瀬秀雄、虎尾正久両氏と3人の教授がおやめになり、3教授退官記念植樹が行われ、天文台グラウンドの南東部に巨大な記念樹として天を衝いている。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp